

| 科目名 | | 演習Ⅱ（地方行財政） | |
|---------------------|--|------------|-----|
| 担当教員 | 片田 興 | 科目区分 | 演習 |
| 開講区分 | 通年 | 単位数 | 4単位 |
| 曜日時限 | 木曜・2時限 | 開講年次 | 2年 |
| 到達目標 | 本授業の到達目標は、段階的に、①地方行財政の仕組みを理解し、②その問題点と課題を提示し、③受講生自らが今後の対応策を提示できる能力を養うことです。その集大成として「演習Ⅱ」では、各自の研究テーマに即した「修士論文」を作成することを到達目標とします。 | | |
| 授業概要 | <p>今日、少子高齢社会の下で、地方行財政の重要性が増大しています。例えば、これまで各地域の家庭内で行うことができていた「介護」・「子育て」等が、核家族化、単身世帯の増加等に伴って家庭内で十分に行えなくなり、その結果、後期高齢者医療等も含めた、いわゆる「社会保障」に係る政策が地方公共団体の重要な施策となっています。つまり、医療・年金・介護・子ども子育て支援といった社会保障政策は、今日、地方公共団体にとっても大変重要な施策となってきています。</p> <p>そこで、本演習では、演習Ⅰの内容を踏まえ、院生間の意見交換・討論及び修士論文作成に向けた指導を行います。</p> <p>このように、本演習では、地方行財政に係る諸問題につき受講生が自らの判断に基づく解決策を提示できる能力を「修士論文」として作成することを目的としています。</p> | | |
| 授業計画 | | | |
| 回数 | 内容 | | |
| 第1回 | オリエンテーション－演習Ⅱ・前期のすすめ方－ | | |
| 第2回 | 基本文献の提示と参考文献の紹介 | | |
| 第3回 | 各自の研究テーマの発表① | | |
| 第4回 | 各自の研究テーマの発表② | | |
| 第5回 | 各自の研究テーマの発表③ | | |
| 第6回 | 基本文献及び参考文献の輪読①（問題点・課題等の抽出） | | |
| 第7回 | 基本文献及び参考文献の輪読②（問題点・課題等の抽出） | | |
| 第8回 | 基本文献及び参考文献の輪読③（問題点・課題等の抽出） | | |
| 第9回 | 基本文献及び参考文献の輪読に基づく各自の報告①（問題点・課題等の整理） | | |
| 第10回 | 基本文献及び参考文献の輪読に基づく各自の報告②（問題点・課題等への対応策の検討） | | |
| 第11回 | 基本文献及び参考文献の輪読に基づく各自の報告③（問題点・課題等への対応策に係る議論） | | |
| 第12回 | 修士論文作成上の留意点（論文の目的・対象・方法等の確認） | | |
| 第13回 | 修士論文作成に向けた工程表の作成 | | |
| 第14回 | 修士論文作成計画発表 | | |
| 第15回 | 総括授業 | | |
| 第16回 | オリエンテーション－演習Ⅱ・後期のすすめ方－ | | |
| 第17回 | 個別研究発表・意見交換① | | |
| 第18回 | 個別研究発表・意見交換② | | |
| 第19回 | 個別研究発表・意見交換③ | | |
| 第20回 | 修士論文作成に向けた文献整理・報告① | | |
| 第21回 | 修士論文作成に向けた文献整理・報告② | | |
| 第22回 | 修士論文作成に向けた文献整理・報告③ | | |
| 第23回 | 2年生による修士論文作成報告①（問題の背景・問題の所在の提示） | | |
| 第24回 | 2年生による修士論文作成報告②（問題提起） | | |
| 第25回 | 2年生による修士論文作成報告③（論文の論理構成の提示） | | |
| 第26回 | 2年生による修士論文の改善及び意見交換① | | |
| 第27回 | 2年生による修士論文の改善及び意見交換② | | |
| 第28回 | 2年生による修士論文の改善及び意見交換③ | | |
| 第29回 | 全体討論 | | |
| 第30回 | 総括授業 | | |
| 準備学習等（課題・予習・復習・調査等） | 演習における授業内容につき、各自の研究課題に係る内容を纏めて事前にレジュメを作成し、その上で、議論に向けた準備をしておくことを本演習における「準備学習」とします。また、授業時における、修士論文の作成に向けた計画的な「準備学習」の報告も同様です。 | | |

| | |
|-----------------------------|---|
| | |
| 評価方法・基準 ・講評の方法 | <p>【評価方法・基準】 期末試験（レポート）（50%）、小レポート（50%）を合計し、総合的に判断して評価します。</p> <p>【講評の方法】 メールにて個別対応します。</p> |
| テキスト・参考書 | <p>【テキスト・参考書】 地方行財政特殊講義Ⅰ・Ⅱで使用するテキスト等の他に、特定のテキストを使用することはありませんが、受講生の皆さんの興味と関心に基づき、また、授業の進捗状況に合わせて適時、資料、関連論文等を配布します。 （その他の参考書、資料、専門的な論文等の紹介は、授業展開にあわせ、その都度おこないます。）</p> |
| 前年度の授業を ふまえた今年度 の授業方針 | <p>前年度における課題を踏まえもまた「授業アンケート」の結果等に基づき、本年度においても引き続き「到達目標」を達成するために双方向型の授業を進めていきます。</p> |
| 学生への メッセージ | <p>地方行財政を学ぶことは、私たちが生活している地域の様々な問題を解決していくために大変役立ちます。財政や税制を一部の人のものとせず、広く地域に開かれた本研究科において、多様な院生が集い、より積極的に学んでほしいと願っています。</p> |
| 授業に参考と なるサイト | <ul style="list-style-type: none"> ・財務省 ホームページ http://www.mof.go.jp/ ・総務省 ホームページ http://www.soumu.go.jp/ ・国税庁 ホームページ http://www.nta.go.jp/ ・首相官邸 ホームページ http://www.kantei.go.jp/ |
| 関連する画像 | |
| その他・備考 | |